

【1】 次の史料は、松平定信の自叙伝『宇下人言』である。史料を読み、以下の問いに答えなさい。

史料 I

また老中へ賄賂銅臭（どうれう）（注1）おびただしさ、これまたいふばかりなりけり。その賄賂といふは、まことに公行したる事にて、金子（きんす）（注2）など袖にしておくなどは昔の事なり。近來は小たんす、又は火鉢、又は水所物などといひて、みな黄金をおくるなり。

(注1) 銅臭…金銭をむさぼり、お金の力での出世することに対して批判的な言い方。

(注2) 金子…お金・貨幣

史料Ⅱ

亥の夏の頃（寛政三年）、盗妖^{とうよう}ということあり、ここにも盗み入れたりといえは、かしこにも入れたり、きのうは何ヵ所へ盗み入れたりという、それより町々にても犬声など聞きては、そよ盗きたりけりとて、鐘などうちならすにぞ、その鐘の声をききて又うちさわぎつつ一夜いねず、かかる事半月^{ばく}計りにも有りけん、巷説^{こうせつ}喧々^{けんけん}（注3）として人情もさらに安からざりしは、希有^{けうう}の事なり 一中略^{いまま}一 今更に至り困窮いや増し候間、なおさら義氣^{ぎぎ}（注4）消滅いたし候、然る処、a 下々の勢いは増長いたし来たり候て、自然と妖言^{ようげん}（注5）を生じ候事

(注3) 巷説喧々…世間のうわさ、風説を、多くの人が騒ぎ立てている様子。

(注4) 義気…義に富んだ心。正義を守る心。義侠心。

(注5) 妖言…さまざま流れたうわさ、風説。

問1 史料Ⅰ・Ⅱの内容について説明した以下の文X・Yの正誤の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。

X 史料Ⅰでは、定信は老中の賄賂政治を批判しているが、この老中は田沼意次である。

Y 史料Ⅱでは、あらぬうわさが広まる原因を、定信は武士の士風の乱れだと考えている。

$$\text{ア} \quad X = \text{正} \quad Y = \text{正}$$

イ X=正 Y=誤

ウ X=誤 Y=正

工 X=誤 Y=誤

問2 下線部 a の状況をただすため定信が行った対策として、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 人返しの法により、都市に流入した農村出身者の帰村を奨励した。

イ 株仲間を奨励し、豪商の資金力を幕府の金融政策に活用した。

ウ 旗本・御家人の困窮を救うため、札差に対して貸金の破棄を命じた。

エ 村々に寄場組合をつくらせ、治安の維持や風俗の取締りに当たらせた。

問3 定信の都市政策について述べた以下の文 a～d のうち、最も適切なものの組み合わせを選びなさい。

a 町入用(町費)の7割を、毎年積立てさせた。

b 町入用(町費)の節約分の7割を、毎年積立てさせた。

c 積金は町奉行所に積立てさせ、下層町人への融資などに使われた。

d 積金は町会所に積立てさせ、飢饉の時などの貧民救済に使われた。

 $\mathcal{A} \quad a \cdot c$

1 a · d

ウ $b \cdot c$
$$\mathbb{I} \quad b \cdot d$$

問4 定信が閑院宮典仁親王への太上天皇宣下に反対した事件を何というか。

問5 次の狂歌のうち、松平定信に対する批判として適切ではないものを選びなさい。

- ア 世の中に蚊ほどうるさきものはなし ぶんぶといふて夜もねられず
 イ 上げ米といへ上げ米は気に入らず 金納ならばしじうくろふぞ
 ウ 白川の清きながれに魚すまず にごる田沼の水ぞ恋しき
 エ どこまでもかゆき所にゆきとどく 徳ある君の孫の手なれば

【2】 次の会話文と史料を読み、以下の問いに答えなさい。

山本さん 松平定信は、寛政の改革に注目が集まりがちですが、ロシアの接近にもかなり悩まされたようですね。

松尾さん そうなのです。松平定信は、a 漂流民大黒屋光太夫を伴ってラクスマンが根室に来航したことに対して、自ら相模、伊豆を巡察し、現在の鎌倉市内にあった玉縄城を防衛拠点にできないか検討したくらいですからね。

山本さん へえ～頑張っていたんですね。私は、定信と言えは b 幕府に対する意見を弾圧して、書籍を発禁にしたイメージしかありませんでした。

松尾さん まあ、ペリーの時のような大騒ぎとなることを防ぎたいという意図もあったのかもしれませんが。ロシアの脅威に対して蝦夷地をどのように扱うかということでも様々な意見があったことが次の史料から、わかりますよ。

史料Ⅰ 『宇下人言』 松平定信

此の蝦夷という国はいといひひろければ、世々の人米穀などをうえてその国をひらくべしなどいうものことに多かりけれど、天その地を開き給わざるこそ有り難けれ、いま蝦夷に米穀などおしえ侍らば、きわめて邊害(注1)をひらくべし。ことにおそるべき事なりと建議してその儀は止にけり
 (注1) 邊害…国境におけるトラブル

史料Ⅱ 『赤蝦夷風説考』 工藤平助

扨日本^{きて}の力を増すには蝦夷地の金山をひらき、並^{ならびにその}其出産物を多するにしくはなし。蝦夷の金山を開く事、昔より山師共の云ふらす所なるが、入用と出高と相当せず、これに依^よりすたれ^{あるところ}有所なり。然^{しかる}に先の云所^{いうところ}の「ヲロシア」(注2)と交易の事おこらば、この力を以て開発^{ありたき}有度事なり。
 (注2) ヲロシア…ロシア

山本さん よくわかりました。ところで、ラクスマンに信牌を渡して長崎に行くように伝えたことは、問題の先延ばしにしかなくていい感じがしますけどね。

松尾さん 実際、松平定信失脚後にレザノフがラクスマンの持ち帰った信牌を携えて長崎に来航し、通商関係の樹立を求めてきましたからね。

山本さん その時の幕府は、朝鮮・琉球・中国・オランダ以外とは新たに外交・通商関係をもたないのが祖法であると拒否したんですね。

松尾さん このときの幕府の対応は、ロシア軍艦が樺太や択捉を攻撃する事件(フヴォストフ事件)につながり、よりロシアとの関係は陰悪になっていき、1811年には c ゴローウニン事件が発生することになります。

山本さん 私は幕末の外交において、もっと X を評価してもいいと思います。

松尾さん では、Y との関連について調べると、研究を深めていけますよ。

問1 下線部 a の人物が謁見した、南下政策を推し進めたロシアの皇帝を次から選び、番号で答えなさい。

- ア エカチェリーナ2世 イ アレクサンドル2世
ウ ピョートル2世 エ ニコライ2世

問2 下線部 b に関連して、この時の定信によって発禁処分された書物と、その著者の組合せとして、適切なものを選びなさい。

- 書物 X 当世の俗習にて、異国船の入津は長崎に限りたる事にて、別の浦え船を寄する事は決して成らざる事と思へり。一中略……当時長崎に嚴重に石火矢を備有て、却て、安房・相模の海港に其備なし、此事甚だ不審。細かに思へば、江戸の日本橋より唐・阿蘭陀迄境なしの水路なり。然るを此に備へずして、長崎のみ備るは何事ぞや。
- Y 日本は海国なれば渡海・運送・交易は固より国君の天職最第一の国務なれば、万国へ船舶を遣りて、国用の要用たる産物、及び金銀銅を抜き取て日本へ入れ、国力を厚くすべきは海国具足の仕方なり。

- 著者 a 高野長英
b 林子平

- ア X-a イ X-b ウ Y-a エ Y-b

問3 史料Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえて、松平定信と工藤平助の考えについて述べた以下の文 a～d のうち、最も適切なものの組み合わせを選びなさい。

- a 工藤平助は、ロシアとの交易の利益によって蝦夷地を開発することを提言した。
b 工藤平助は蝦夷地の開発は赤字になるため、国債を発行することを提言した。
c 松平定信は、蝦夷に農業を広めることに反対はしたが、ロシアとの交易は推進した。
d 松平定信は、工藤平助を意見を幕府への批判ととらえ処罰した。

- ア a・c イ a・d ウ b・c エ b・d

問4 下線部 c について述べた次の文から誤っているものを選び、番号で答えよ。

- ア 高田屋嘉兵衛は、伊勢の船乗りでゴローウニンが捕らえられた報復としてロシアに捕らえられた。
イ 高田屋嘉兵衛は、9カ月でロシア語を修得して自ら解放交渉を行うことになる。
ウ ゴローウニンは、箱館・松前に監禁され、その時のことを『日本幽囚記』に残している。
エ ゴローウニンは、この事件による日ロ関係の悪化から、解放されることなく日本で生涯を終えた。

問5 会話文中の X・Y に当てはまる語句の組合せとして、最も適切なものを選びなさい。

- X a ロシアの接近が寛政の改革と開国に与えた影響
b ロシアの接近が文久の改革と倒幕に与えた影響
Y c 日本全土の測量による地図の作成
d 日本における西洋式の軍隊の導入

- ア a-c イ a-d ウ b-c エ b-d

【解答】【1】問1 ア	問2 ウ	問3 エ	問4 尊号一件	問5 イ
【2】問1 ア	問2 イ	問3 イ	問4 エ	問5 ウ